

aria

rega

World class hi-fi made in England.

はじめに

フォノアンプの役割は、カートリッジがレコード盤から拾い上げた音楽信号をライン出力レベルまでに増幅し、アンプへと送り込むことです。カートリッジから送られてくる音楽信号のレベルは非常に小さく、さらに、RIAA 特性カーブに合わせてイコライジングをかけなくてはなりません。MC カートリッジ、MM カートリッジの特性にあわせ、最適な再生を実現するためには、それぞれのカートリッジの特性に合わせて設計されたフォノアンプが必要です。Rega Aria は、この思想のもと、MC/MM それぞれのカートリッジの特性に合わせて、オーディオ回路を個別に設計し、「妥協」のない専用回路としました。また、Aria は、「オールアナログアンプ設計」とし、コントロール回路にまで、デジタルではなく、アナログ回路を敢えて採用し、アナログアンプによる音質にこだわって設計しています。オールアルミプレートで組まれたシャーシは、外部から飛び込んでくる RFI シグナルから内部を守ります。オーディオ信号の回路の妨げ、音質を劣化させるような、不必要なテック部品の使用は避けました。Aria は、素晴らしい発想とかつてないほどの設計デザイン思想から誕生しました。この素晴らしい設計デザインの詳細は「テクノロジー」のところで、改めて記載しておりますので、ご参照下さい。

では、早速、Aria に電源を入れ、その素晴らしいサウンドに身を委ねてみて下さい。

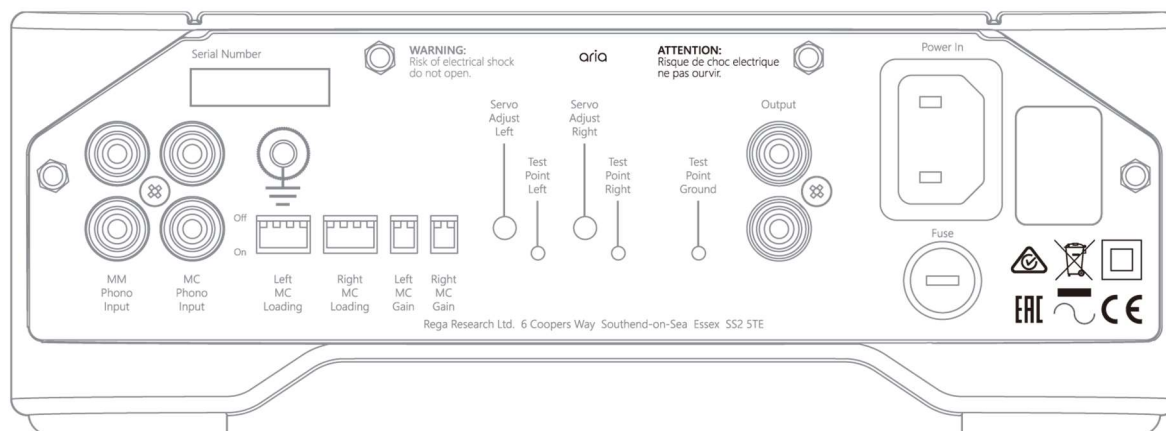
テクノロジー

Aria は、完全に独立した 2 組のハイ・パフォーマンス・フォノ回路、ターンテーブルに搭載されている MC カートリッジの特性にあわせて設定変更が出来る MC カートリッジ専用回路と MM カートリッジ専用回路を搭載しました。それぞれの回路は、入力端子、入力段のオーディオ回路から分かれており、入力段から完全に独立しているため、音質に一切妥協のない、製品設計となっています。MM/MC の切り換えは、音質に配慮し、高感度、低抵抗のリレーを採用、MC カートリッジ専用回路には特性の揃った ローノイズタイプの FET トランジスターを左右独立で配置しています。FET トランジスターを採用することにより、バイアス電流が MC カートリッジのコイルへと逆走を防ぎ、MC カートリッジ内の磁界への影響を防ぎます。更に、ターンテーブルに搭載されている MC カートリッジの仕様にあわせて、抵抗値 (70ohm-400ohm)、コンデンサーの容量 (1,000-4,200pF)、入力感度 Low/High (4dB 分)の設定を L/R 個別で設定することが出来ます。MM カートリッジ専用回路でも、特性の揃ったバイポーラ・トランジスターを左右独立で配置、電源回路も左右独立となっているほか、入力段用に、サブの電源供給回路を左右独立で設定し、一層のローノイズ化に貢献しています。音質に定評のあるオーディオコンデンサーの中から、Rega が選りすぐったタイプのもを電源供給回路の重要なところに採用しているほか、ICELE、Wima といったポリプロピレンコンデンサーをオーディオ信号回路や RIAA EQ 回路上で使用しています。Aria を設計するにあたり Rega のエンジニア達が掲げた設計思想が製品の隅々まで行きわたるよう、オーディオ信号回路は全段ディスクリート設計となっています。

設置

Aria を水平に置くことも重要ですが、それ以上に、製品内部の熱が必要以上に上がらないように、十分な換気がとれるように設置下さい。また、磁気関連の干渉やハムノイズの増幅を避けるためにも、ターンテーブルからは、出来るだけ離すことをお勧めします。トランスやモーターとの干渉が発生していないことを確認下さい。また、他のオーディオコンポの上に置くといったことや、ゲインが高いフォノアンプならではの特性に配慮して、アンプ等の大型トランスを搭載した製品の側に置くといったことは避けるようお願いいたします。稀にみられる、低レベルのノイズが回りこむといった現象が発生した場合には、ゲインのセッティングを Low にし、Aria をトランスやモーターといったものから離して再度設置下さい。Aria は、シャーンを通して放熱をしています。熱量は最低限に抑えられておりますが、右側より、左側のほうが、熱をもちやすくなっています。放熱を滞りなくおこなうためにも、Aria のまわりの空気の循環にはご注意ください。Aria は、電源を入れて数分で本体のウォームアップが完了し、入力段を中心に製品性能が安定することを目的に設計されており、最適な動作環境で Aria を使用することが可能です。特に、MC カートリッジ専用回路には、セルフ・アジャスティング・サーボ・コントロール機能があり、様々な気候条件や気温に左右されず最適な動作環境で動作できるような設計となっています。

バックパネル



接続

MM カートリッジ用、MC カートリッジ用に背面の入力端子は分かれています。ご使用のカートリッジのタイプにあわせて接続下さい。ターンテーブルのケーブルにアース用のケーブルがある場合には、アース端子に必ず接続下さい。アースの接続が緩いとノイズ発生の原因となります。Aria の Output(出力端子、MC/MM 共用)からアンプのライン入力へ接続します。出来るだけハイクオリティーなラインケーブルを使用することをお薦めします。電源ケーブルは着脱式の 2P タイプを採用しています。電源ケーブルを別売のハイクオリティーなタイプに変更することで、音質の一層の向上が図れます。電源ケーブルを Aria 本体から抜く場合は、Aria、接続しているアンプとも主電源をオフにしていることを確認願います。

設定 (MC カートリッジ用)

抵抗 (L/R とも)

1 and 2 off = 400 Ω

1 only on = 100 Ω

2 only on = 150 Ω

1 and 2 on = 70 Ω

ゲイン (L/R とも)

1 off and 2 on low gain = 63.5 dB

1 on and 2 off high gain = 69.3 dB

コンデンサー容量 (L/R とも)

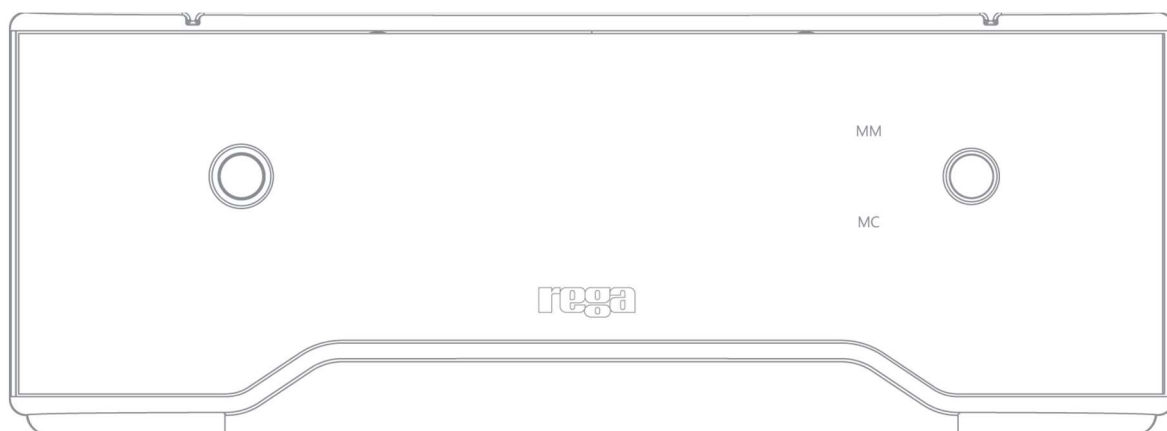
3 and 4 off = 1000 pF

3 only on = 2000 pF

4 only on = 3200 pF

3 and 4 on = 4200 pF

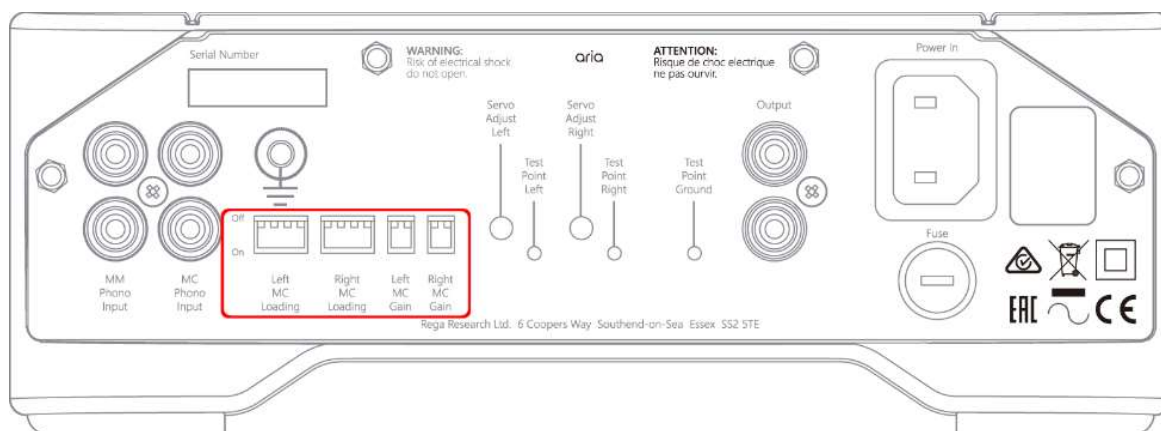
フロントパネル



電源

Aria は正面左にある Power ON/OFF のボタンで電源入/切の操作をします。本体に電源が入ると、正面の「Rega」のロゴが点灯します。Aria は、接続しているアンプの電源を入れる前に電源を入れ、アンプの電源をオフにした後、Aria の電源をオフにすることをお勧めしています。アンプの電源を入れる前に、Aria に電源を入れ、アンプの電源をオフにした後、Aria の電源をオフにすることをお勧めしています。尚、Power ON 時、MM・MC の切り換え時に、約 5 秒間 MUTE 状態となります。MM/MC の切り換えは、正面右側のスイッチで行い、選択している回路にあわせて MM, MC のインジケーターが点灯します。MM/MC 切り換え時に MUTE になるのは、スイッチノイズがアンプ側へ流れることを防ぐためです。また、MM/MC のスイッチ切り換え時に、MM/MC 両方のインディゲーターが瞬間点滅し、クリック音が鳴る仕様となっていますが、これは、MUTE をかけると同時に、リレー回路のクリーニングと動作開始をさせるためにこのような動作をさせているので、故障ではありません、ご安心下さい。

MC カートリッジの調整



ご注意-1

背面にある MC カートリッジ専用回路用のセッティングを変更する場合、特に Gain の設定を変更する場合には、MC 入力回路のゲインレベルを変更するため、アンプの電源が入ったままの状態、Aria からの入力を選択している場合、スピーカーからポップアップノイズが漏れる可能性があります。尚、MC のポジションで、アンプの電源が入ったまま、Aria からの入力を選択している場合、スピーカーからポップアップノイズが漏れる可能性があります。尚、MC のポジションでは、負荷抵抗 70ohm-400ohm、コンデンサーの容量の選択 1,000/ 4,200pF、ゲインのレベルは、6dB の範囲で変更が出来ます。設定の変更は、スイッチを上下に移動させて ON/OFF の設定が出来、L/R それぞれで可能です。

Rega MC カートリッジ（Aria/ Apheta 2 / Aphelion）の場合の設定は以下の通りです。

- ・ L / R の設定は同じです。
- ・ Loading Resistance - 1 only on = 100 Ω
- ・ Loading Capacitance - 3 and 4 off = 1000 pF
- ・ MC Gain - 1 on and 2 off high gain = 69.3 dB

*上記のセッティングは工場出荷時と同じとなっています。

ご注意-2

空気が十分に循環する空間が確保できる場所に Aria を置いて下さい。特に、本体向かって左側に、ヒートシンクがあるので、熱がこもりやすくなっています。最低操作温度は、5 度以上、他の製品との距離は、60 mm 以上の間隔を置いて設置をお願いします。Aria は、一般的な生活環境の範囲での使用を前提につくられています、火災や電氣的ショック、製品のダメージの危険性を低減するため、雨天時の野外での使用や湿度の高いところでの使用、水の中に落とす、水しぶきがかかる、花瓶のように、水のような液体を製品内部に貯めるといった行為は控えて下さい。

輸入元 /  完実電気株式会社
KANJITSU DENKI CO.,LTD

URL : <http://www.kanjitsu.com>

本社 / 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-25 住友神保町ビル
大阪営業所 / 〒532-0012 大阪市淀川西中島 2-14-6 新大阪第二ドイビル 9 階
サポートセンター: info@kanjitsu.com、TEL.050-3388-6838

(受付時間: 平日 10:00-17:00)